



日本GNH学会 NEWS 第4号

発行：日本GNH学会

2011年10月24日

祝 ブータン国王陛下ご結婚式
国王陛下ご夫妻のご来日決定！

日本GNH学会ならびに会員一同は、ブータン王国国王ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク陛下及び同王妃陛下のご結婚式をお慶び申し上げます。

また、11月15日(火曜日)から19日(土曜日)までの国賓としてのご来日を歓迎いたします。

祝ブータン国王ご成婚



BHUTAN TIMESより転載 <http://www.bhutantimes.bt/index.php>

日本GNH学会 (Japan Society for GNH Studies) 「ブータンのGNHを考える」

ブータン国王ご夫妻 ご来日決定！

外務省発表：プレスリリース

ブータン王国国王ジグミ・ケサル・ナムギャル・ワンチュク陛下及び
同王妃陛下の来日

平成23年10月18日

- ・ 11月15日(火曜日)から19日(土曜日)まで、ブータン王国国王及び同王妃陛下が、随員と共に、国賓として滞在されます。
- ・ 滞在中、天皇皇后両陛下は、同国王王妃両陛下と御会見になるほか宮中晩餐を催されます。
- ・ 同国王王妃両陛下の来日は、我が国とブータン王国との親善関係を一段と深めるものと期待されます。

日本GNH学会 編集

ブータン王国ジグミ・ティンレイ首相講演録

2010年4月 経済同友会全国セミナー 基調講演より

<予約受付中！> 詳細は、学会事務局へお問い合わせ下さい

国民総幸福度(GNH)による 新しい世界へ

ブータン王国ティンレイ首相講演録

ジグミ・ティンレイ 著
日本GNH学会 編

芙蓉書房出版

＜新連載：リレーエッセイ＞

私とGNH No.6

「学会NEWS」では、会員皆様のエッセイ「私とGNH」をリレー形式により掲載します（ご投稿大歓迎！）

不安ばかりの日本とGNH（2）

多方一成

（本学会会員・大阪成蹊大学マネジメント学部 教授）

社会改革には歴史的・国際的にみると2つに分類されよう。第1は、カリスマ的独裁者の登場によって、ドラスティックに社会改革を進める方法である。第2は、住民サイドが社会改革の必要性を感じ、自分の身近なところから積み上げていき、賛同する仲間を増やして除々にやっていく方法である。

現下の「不安ばかりの日本」においては、第1のようなカリスマ的独裁者の登場によって社会改革をやる方がスピーディに実効性が伴い、社会改革が一挙に進むだろう。しかし、実際的に日本でカリスマ的独裁者の登場は期待できない。となると、第2の方法を取らざるをえない。

ブータンで生まれた「GNH」運動は、前国王の提唱によるもので、決して独裁的に行われてきたものではない。近隣のアジア諸国の急速な経済発展による社会変貌の実態をみて「成長度」よりも「幸福度」を最優先に考え「GNH」を国家目標とした。ブータン国民は、前国王の考え方に賛同し、自分たちのできる「幸福」を日常的に実践した結果がブータンの国情を幸福に安定的なものしてきたのである。

もし今、野田首相が「不安ばかりの日本」の一解決方法として「日本型GNH社会」を唱え、全国民にそのメッセージを送ったとしたら、日本国民はどう反応するであろうか。結論から言えば、建設的な意見が国民各位から続出すると到底思えない。野田さんの戯言として国民の大多数は総じて聞き流すに違いない。なぜならば、GNHの考え方を浸透させるのには、日本という国家サイズではあまりにも大きくなり過ぎたからといわざるをえないからである。したがって、「BNH学会NEWS 第2号〈改訂版〉」で田中一彦常任理事が指摘されているように、熊本県や福岡県のようなもう少し小さなサイズ、すなわち都道府県か市町村のサイズで「〇〇型GNH社会」の創造を模索していくのが賢明だろう。ただ、まだ両県とも計画の段階で言葉だけが先行し、具体策が明確に見えてきていないように感じるが。

さて、日本の市町村に目を向けてみよう。グリーン・ツーリズム研究で全国各地に出かけてみると、そこに居住している人そのものに、GNHを体現している人に多く出会う（いうまでもなく、彼ら彼女らはGNHの概念すら知らない）。具体名をあげて恐縮だが、宮崎県都城市の故鳥集（とりだまり）忠男さん、宮崎県椎葉村の椎葉クニ子さん、長野県大鹿村の伊東和美さんなどである。この3人に出会って話を聴いていると、実にところが豊かにかつ軽やか、そして温かくなる。同じ話を何回聴いても新鮮なので不思議である。この3人の話には「幸せに生きる」ヒントがいっぱい詰まっているのである。

ゆえに「不安ばかりの日本」の社会改革にはこうした人材が欠かせない。一方で上記の第2の方法を取らざるをえない。ゆえに「各地で根を下ろして住みながら、グローバルに通用する人材」と「住民サイドが社会改革の必要性を感じ、自分の身近なところから積み上げていき、賛同する仲間を増やしていく方法」とのコラボレーションが地域社会にとって、独自のGNHを形成し、「不安」を少しずつに取り除いていくこととなるだろう。それには1秒を争う熾烈な競争で生まれる価値ではない、それ以外の大きな価値があること、創造することをまず体感・体得しなければならないことは明白である。（つづく）

<新連載：リレーエッセイ> 私とGNH No.7

「学会NEWS」では、会員皆様のエッセイ「私とGNH」をリレー形式により掲載します（ご投稿大歓迎！）

今すぐ、ここで、適用できるGNHの実践性（1）

緒川 弘孝

（地域振興コンサルタント：フリーランス）

国民総幸福(GNH)は、決して国家やブータンや世界を語るときだけ取り上げる、どこか遠い話ではなく、自分が住む日本の社会や身近な生活を考えるときにも、その方向性を明確に示してくれる羅針盤の役割を果たす実践的な哲学であると、4年前にブータンを訪れてから、私は実感し続けています。

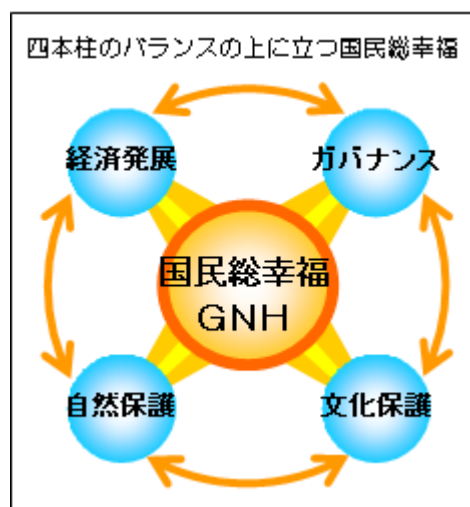
GNHは、行政指標として利用することも大事ですが、さらに重要なのは、その考え方です。ブータンでは、建築件数が年々増え、2年で葺き替える必要がある屋根用の木材の需要も増加して森林資源への影響も懸念されました。その一方で、ブータンの伝統文化の保護にとっても、景観や建築を大きく左右する屋根材は重要です。つまり「自然保護」と「文化保護」がバッティングしたのですが、ブータン政府は森林資源の問題が解決されるまでの暫定措置として、一時的に屋根材としてトタンを無料配布する判断をしました。この判断の背景に、全ての政策の目的として「国民総幸福」があり、その実現のために、「自然保護」と「文化保護」のどちらにも偏らず、最適なバランスを取ることが必要との考え方が、国の官僚たちにも浸透していることを、インタビューで感じました。

「自然保護」も「文化保護」も、どちらも重要であるがゆえに、ときとして“自然保護原理主義”や“文化保護原理主義”的な考え方が登場しますが、GNHは、どちらも大事だけど、最終的な目的は「国民総幸福」なんだよ、と教えてくれます。目的と手段が転倒して手段が暴走するのを防ぎ、様々な要素のバランスを取らなければいけないことに気付かせてくれます。「経済発展」が暴走して環境が悪化するのも、「ガバナンス」が暴走して国民不在の独裁国家になることも防いでくれるでしょう。

もう一つ、GNHの考え方で重要なのは、「幸福」のHだけでなく、GやNに含まれる「国民総」の部分です。個人個人の幸福は、社会全体の幸福と一体的です。自分以外全員不幸なのに、自分1人だけ幸せ、ということは有り得ません。GNHは、個人や一部の人間のエゴの暴走や、逆に国家や組織全体の暴走を防ぐ考え方でもあるのです。

このようにGNHは、物事や要素の間で、また個人と社会全体の幸福の間でバランスを取ることの重要性を常に意識させてくれますし、目的と手段が転倒しないよう常に教えてくれます。東日本大震災による甚大な津波被災や原発事故による放射能汚染で、国難に瀕している現在の日本の社会においても、GNHの考え方を適用する重要性が浮かび上がって来るのですが、紙面も尽きましたので、次号での機会を頂ければ幸いです。

参照：山村高淑、小林英俊、緒川弘孝、石森秀三編 『コミュニティ・ベースド・ツーリズム事例研究』 2010.2、北海道大学観光学高等研究センター・財団法人日本交通公社
<http://hdl.handle.net/2115/42681>



日本GNH学会 入会資料 プリントして入会勧誘に ご活用下さい。

■日本GNH学会とは？

日本GNH学会は、2011年6月12日に設立された新しい学会です。

本学会の性格と目的は、設立趣意書と会則をお読みいただければ判ります。

日本GNH学会は、次のような方針を持ちます。

- ・ブータン王国におけるGNHでの国造りに協力する活動として、ブータン王国の実践を研究する
- ・世界で展開されるGNHの理念による実践について、多様な立場からの意見と調査をまとめ提言する
- ・私たちの生活の場、さらに国や地方公共団体におけるGNHについて考え、その実践促進のため活動する
- ・日本におけるブータン王国との友好・交流・研究を奨める諸団体と協力する
- ・人との「結びつき」を大切にすることがGNHの思想の理念であり、人びとの「結びつき」の場を提供する

そして、本会はGNH（国民総幸福度）の発展と普及に貢献し、研究遂行に必要な連絡と協力をひろく国内外にわたって促進することを目的とします。この目的のため本学会は以下の諸事業を行います。

- ・年度毎の大会、その他の研究会の開催
- ・出版物の発行
- ・ブータン王国との親善交流の促進
- ・国内外の研究者、研究・国際親善団体との交流・連絡・提携
- ・その他本会の目的達成のために必要な事業



日本GNH学会設立趣意書

GNH (Gross National Happiness) とは、ヒマラヤ山脈に囲まれた小さな国であるブータン王国に由来します。1976年、ブータン王国のワンチュック前国王陛下が、最初に提唱された新しい社会経済開発の理念です。その後のブータン王国は、国民の「幸福」実現を国家発展の目的の一つとしてGNHを掲げ、立憲王制と民主主義の導入、国民生活の向上、社会経済開発に努めています。

ブータン王国によるGNHの理念に基づく国家建設は、国内総生産量 (GDP) による成長拡大を唯一の目的として国家を営んできた、日本やアジアも含めた欧米諸国に大きな衝撃を与えました。つまりブータン王国が、物質的な富だけを指標とする従来型社会とその成長計画に対して疑問を投げたからです。これにより多くの国々では、自然・伝統文化・社会を大切にしながら、国家や社会が人びとの幸福感を満たすために何をするかを考える機運となりました。日本においても、ブータン王国でのGNHによる国造りへの協力、諸分野からの研究、さらに日本の市町村や小さな地域社会でのGNH実践への取り組みなど、GNHは多方面で注目されています。

こうしたGNHについて、私たちは幅広い視点と立場から集い、多くの会員が一緒に考え、さらに活動する場となる「日本GNH学会」を設立します。

「学会」との名は、アカデミックの世界に限定された意味ではありません。もちろんGNH研究での成果をまとめられた研究者の皆さんが中核となり、将来にブータンあるいはGNH研究を志す人びとも育成していくことも学会として期待されます。さらに、ブータン王国の政府研究機関と公式かつ密接な研究協力体制を築き、国際的活動を展開するためにも、あえて「学会」を名称としました。

しかし、この学会は、広く国内外でさまざまな分野で活躍されている皆さんを中心に構成される会と考えています。つまりGNH学会は、研究者の意見を優先するものではないのです。なぜなら、GNH

はごく普通の人びとの幸福を実現させる理念だからです。一人の人間として、共に考え、将来の世代のために活動することを本学会はめざします。

会員には、どなたでもGNHに関心がある、あるいは、ブータン王国に興味をもつなど、さまざまな人々のご入会を歓迎します。人間が結ばれる場であるのが、この学会の特徴です。

GNHを考えることは、今の私たち、将来の世界を考える糧となるでしょう。

こうした崇高な理念であるGNHを絆として広めるためにも皆様のご入会を心よりお待ちしております。

★日本GNH学会の会員区分と年会費★

- ①正会員 本会の目的に賛同して入会を申し込み、理事会の承認を受けた人。年会費 5,000円
- ②学生会員 本会の目的に賛同して入会を申し込み、理事会の承認を受けた大学・大学院に在学する人。年会費 3,000円
- ③賛助会員 本会事業を賛助するため入会を申し込み、理事会の承認を受けた法人・団体または個人。年会費 1口 10,000円



日本GNH学会 入会資料 プリントして入会勧誘に ご活用下さい。

日本GNH学会 入会申込書

入会ご希望の方は下記の方法で申込みをお願いします
理事会の承認後、入会のご連絡をさしあげます

- ①学会ホームページの「入会申込フォーム」から
②下記にご記入のうえ事務局にFAX

FAX 03-3813-4615

※学生会員には、大学・大学院在籍書類をご提出頂きます

会員種別	正会員	学生会員	賛助会員
ふりがな 氏名			生年 年
自宅住所	〒 TEL ()		
勤務先 所属	〒 TEL ()		
メールアドレス			
連絡先	自宅	勤務先	(○印を)
研究テーマ			
お知り合い の会員名			

日本GNH学会 役員一覧(2011年9月現在)

会長
緒方 修(沖縄大学法経学部教授・地域研究所所長)

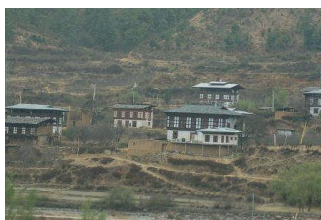
副会長
ベマ・ギヤルボ(桐蔭横浜大学大学院法学研究科教授)

副会長
平山修一(GNH 研究所代表幹事・大東文化大学人文科学研究所兼任研究員)

理事(*は常任理事)

稲葉耶季*(沖縄大学地域研究所特別研究員)
岡崎理香*(岐阜女子大学南アジア研究センター特別研究員)
奥谷三穂(京都府立大学公共政策学部准教授)
木内みどり(女優・文筆家)
日下部尚徳*(ダッカ大学人類学部研究員)
関山祐介*(一般財団法人公共経営研究機構理事)
高木桂藏*(国際ことば学院外国語専門学校校長)
田中一彦*(ジャーナリスト)
チェン・シー・ユウ(樹シール・アイ・エー代表取締役)
富野暉一郎(龍谷大学法学部教授)
中嶋開多*(法政大学大学院政策創造研究科教授)
福永正明*(岐阜女子大学南アジア研究センター客員教授)
松下和夫(京都大学大学院地球環境学堂教授)
マリ・クリスティーン*(ブータン王国名誉文化大使
・国連ハビタット親善大使)

森 詠(作家)
渡辺武達*(同志社大学社会学部メディア学科教授)



日本GNH学会

入会案内

<http://www.js-gnh.org>

〒113-0033東京都文京区本郷3-3-13
ウィークお茶の水ビル2階 頼美書房出版内
電話:03-3813-4466 FAX:03-3813-4615

日本GNH学会 『学会NEWS 第3号』

発行：日本GNH学会事務局

2011年10月21日

編集担当：日下部尚徳(常任理事)

学会に関しましては、以下の事務局までお知らせ下さい。

〒113-0033東京都文京区本郷3丁目3番地13

ウィークお茶の水ビル2階

株式会社芙蓉書房出版内

電話：03-3813-4466 FAX：03-3813-4615

学会費の振込口座：三菱東京UFJ銀行 本郷支店(351)

普通預金 0080204

日本GNH学会

メール：Info@js-gnh.org

学会へのご連絡、GNHに関するご質問、メディア取材依頼、講演など企画依頼は、メールにてお願いします。

本『学会NEWS』に掲載する論考・エッセイ・投稿などは、執筆者のご見解・ご意見であり、本学会の見解を反映するものではありません。念のため申し添えます。